



にじのはし幼稚園 園だより

令和 3 年 5 月 号
港区立にじのはし幼稚園
園長 石川典子

新年度が始まり 1 か月です。園庭に元気に泳ぐこいのぼり、その後ろをさっそうと走るゆりかもめ。負けじと、幼児たちは、はつらつと心躍らせながら遊んでいます。

年少ことり組は少しずつ園に慣れ、保育室では、自分が好きな場や遊具を選び、おうちごっこや粘土、塗り絵などをして楽しんでいます。園庭では砂の感触を楽しんだり、型抜きをしたり、一人ひとりが自分のしたいことをして過ごしています。降園前の先生の紙芝居や手遊びも大好きです。椅子に座り、興味をもって見たり、先生と同じように手を動かしたりして楽しんでいます。

年中かもめ組は、新しい遊具の中型積み木で場を作り、ままごと遊具を運び込んでおうちごっこをしたり、広い校庭で先生や友達と一緒に思い切り走ったりしています。一斉活動で、自分のクレパスを初めて使いました。真新しいクレパスを手に持ち、画用紙の上を自由に動かし、のびのびと描くことを楽しんでいました。にじっこガーデンの散歩では、花を見て香りを嗅ぎ、池ではメダカを見る眼差しが真剣になります。幼児にとって魅力ある自然環境のためにご協力いただいているガーデニング係の保護者の皆様には感謝いたします。

ぼかぼか広場でダイナミックに体を動かすのは、年長いるか組です。自分たちでミニコーンを置いてコースを作り、円形リレーをしたり、学級全員でドッジボールをしたり、汗をかきながら思い切り体を動かす心地よさを感じています。先日、年中児の時に蒔いた種から、立派に生長した絹さやを収穫しました。新聞紙の上に並べ、先生と一緒に数えた絹さやは、全部で 75 個。塩ゆでにした柔らかい絹さやの鮮やかな色・香り・味を諸感覚を通して味わいました。

にじのはし幼稚園の幼児たちは、園生活の中で毎日、人・場・ものに関わって生活しています。園では、対象となる実物に実際に触れ、関わり合う「直接体験」を重視しています。担任は、学年の実態や発達を考慮し、幼児が「やってみたい」「おもしろそう」と思えるような魅力ある環境や一人ひとりに応じた援助を工夫しています。幼児が興味や関心をもち、自発的に対象物に関わる「直接体験」を通して、感じたり、考えたり、気付いたり、人と触れ合ったり、体を動かしたり、解放感や満足感を味わったりするなど、様々に心や体、頭を働かせる豊かな体験を積み重ねていきます。

園庭のイチゴやジャガイモの葉は日に日に大きくなり緑を増しています。街路樹のハナミズキは満開を迎えています。春の自然の息吹に、幼児たちのこれからの成長が重なります。

